

2016.6.26 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー

2016年

< 聖化の豊かさを味わう > 「聖化の説教」

「今、あなたはエステル」

イエス・キリスト教団香登教会・工藤弘雄牧師

エステル 4:16 の文語「我もし死ぬべくば死ぬべし」及び英訳 (If I perish, I perish) 共、現代日本語にはない簡潔さ、迫力を持っている。

神の名が一度も出てこないエステル記ではあるが、神の摂理がエステルを通して鮮やかに現わされているのが特色である。

1. 自分に対する神のご計画を知る

- ・モルデカイは、ユダヤ人抹殺の陰謀を王宮のエステルに知らせ、王に直訴するように要請した。
- ・モルデカイの信仰は、神の民に対するご計画に基づくものであった。その約束の中心は、選びの民の中からメシヤが現れることであった。
- ・モルデカイは、エステルもその計画の一部であることを自覚させようとした。躊躇するエステルに対して「この時のためにこそ、あなたは王妃の位に達したのではないか」と迫った(4:14)。
- ・私たちキリスト者も、自分が召された目的をしっかりと捉える必要がある。

2. 自分に対する神のご計画に身を投じる

- ・神の計画を知ったエステルは、そのご計画に身を投じる決意をした。それが「もし死ななければならないのなら、死にます」との告白である。
- ・自我の死こそ聖化の真髄である。マリヤもこれを経験し(ルカ 1:38 Let it be!); 主イエスもそれを告白なさった(ルカ 22:42 Your will be done!)。アブラハムもイサクを捧げることによって(創世記 22:2)、ヤコブもベニヤミンを手放すことによって(創世記 43:14)自我の死を告白した。バックストンも日本宣教に召された時、同様の信仰告白を行った。ここに、ホーリネスに生きる民の生き方がある。

3. 自分に対する神のご計画の成就を切に祈る

- ・エステルは、スサの全ユダヤ人に断食をもって祈りに加わるよう要請した。

- ・神のご計画の成就のためには、共同体である教会の一致した祈りが必要である。
- ・個人のホーリネスは、共同体である教会のホーリネスと深く結び合わさっている。

終わりに

- ・神は、現代のエステルを求めておられる。リバイバルのために立ち上がろう。